

ヒメムカシヨモギ (姫昔蓬)

名前の意味^{いみ}：小さなムカシヨモギの意味。ムカシヨモギは、日本に昔から日本に生えていた(自生)^{じせい}する植物で、花が大きい。姫という言葉は、にていて小さなものに付ける。

分類：双子葉類、キク科、ムカシヨモギ属

(キク科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、空き地

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：北米

特徴：地面を円くおおう、粗い^{あら}でこぼこのある葉、白い毛の生えた高い^{くき}茎、小さなキクのような花

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数^{ごうべん}：合弁、5裂^{れつ} (たくさんの花が集まってひとつの花に見える。1つの花の形は小さくてよく見えない)

花の時期：6－9月

食べ方：食べない

見分け方：オオアレチノギク、アレチノギクとは、ヒメムカシヨモギには小さな花びらがあること、葉が細い^{くべつ}ことで区別できる。若いときの区別は慣れない^なとむづかしい。

見つけやすさ ★★★

見分けやすさ ★★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)